

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

兵庫県

2 地域再生計画の名称

北はりま都市と農山村の交流の郷づくり計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成 16 年度から 5 年間

4 地域再生計画の意義と目標

(1) 地域の概況

兵庫県のほぼ中央に位置する北はりま地域（西脇市・多可郡、1 市 4 町）は、東経 135 度と北緯 35 度が西脇市で交錯する「日本の中心・日本のへそ」として有名な地域であり、加古川水系にそった播州平野の上流域に位置し、林野面積が 77% を占める豊かな自然環境に恵まれ、北部の山間部では日本海式気候の影響を受けて冬季に積雪が見られることもあるものの、平均気温は 14 ～ 15 度と、比較的のびのびしやすい地域である。

文化・歴史としては、国指定の重要文化財をはじめ数多くの文化財や史跡のほか、1200 年の歴史をもつ杉原紙、200 年の伝統をもつ播州織、また 150 年にわたり伝統的技術を伝える釣り針など、歴史と伝統に培われた地域でもある。

また、江戸時代から続く播州歌舞伎などの伝統芸能も人々の生活の中に今も息づき、新しい地域文化と一体となった生活圏が形成されている。

また当地域は、古来から、タテ軸として加古川を中心とした水系の文化と、新しいヨコ軸として中国道、山陽道による道の文化の結節点であり、現在では、京阪神都市圏からは、中国自動車道等の広域幹線道路を通じて比較的近く、1 ～ 2 時間の時間距離にあることから、都市圏の人々を当地域へ誘客できる基盤が整備されてきた。

このような中で当地域は、北播磨余暇村公園、日本のへそ公園、農林業公園・ハーモニーパーク、ガルテン八千代、東はりま日時計の丘公園、杉

原紙研究所、岡之山美術館など、豊かな自然を活かしたハイグレードな地域資源を有している。そこで当地域を「都市と農山村の交流の舞台 - 北はりまハイランド - 」として位置付け、具体の装置として自然体験、スポーツ・レクリエーション、文化工芸、歴史文化の4つの舞台を提起するとともに、「地域全体が博物館」という思想のもと、平成14年9月に北はりま田園空間博物館総合案内所をオープンさせ、有形・無形の地域資源197カ所をサテライトとして登録し、地域からの発信に努めている。

また、兵庫県立大学環境人間学部環境人間学科においては、地域創造コースとして都市と農村の交流や自然を中心とする地域資源の保全活動に関する研究を行っている。

当地域は、年間約160万人（H14実績）の観光客の入込みがあるが、約92%が日帰客であり、四季を通じて、手軽に豊かな自然のなかで、スポーツ・レクリエーション活動や歴史・文化・工芸体験といった地域特性を活かした観光に対するポテンシャルが高いことがうかがわれる。

（2）計画の意義

地域特性で見たとおり、当地域は、もともと、地域に根付いた地場産業、歴史性に富んだ文化資源、季節を五感で感じられる豊かな自然に恵まれた地域であったが、景気の低迷が長期化していることもあり、近年、当地域への入込み客は伸び悩んでいる。

また、地域風土を活かした様々な交流施設の整備やイベントの開催等が進められているが、これまで相互の連携が少なく、個々の展開にとどまっており、地域の再発見の機会を提供するなど新たな地域文化を創造するために、各地域が連携して相乗効果により魅力を一層高めていく仕組みづくりが課題となっている。

こうした中で、兵庫県北播磨県民局では、北はりま地域がもつ多様な資源や都市との接点となる地域特性を生かし、「北播磨 豊かな自然との共生 - 交流の舞台づくり - 」を地域テーマとして、管内市町、地域の様々なセクターや個人と協働し、管内の多様な地域特性を活かした取組みを支援するとともに、鉄道の電化事業、域内道路の整備等を進めるなど、交流・集客を機軸とした地域活性化に取り組んでおり、地域が一体となって都市と農山村の交流を機軸とした地域づくりの指針となる「北はりまハイランド構想」を平成7年3月に策定し、その後のアクションプログラム等に基づき、県内外各地域との「交流と共生」を視野に入れた地域づくりへの取組みをすすめている。

また当地域では、公園・アウトドア施設での自然体験メニュー、農林業における体験メニュー、紙すきといった伝統工芸での体験メニュー、播磨風土記に伝わる神話の中の歴史と文化など多彩な地域資源と豊かな自然とが一体となって、都市住民を受け入れる環境を整備し、こうした資源を活かした“北はりまらしい”交流の舞台づくりを展開しており、さらに地域の潜在的な活力を引き出し、民間や地域住民の手による地域づくりを目指

している。

すなわち本計画は、都市と農山村の交流を志向する当地域の行政・民間・個人が連携し、豊かな自然の中でスポーツ・レクリエーション活動や歴史・文化・工芸体験といった地域特性を活かした交流を促進することにより、都市部から北はりま地域を訪れる交流人と北はりま地域住民が、ゆるやかな時間と生活空間の豊かさを実感し、さらに地域文化の創造が可能となる交流の舞台づくりを目指すことにより、地域再生を図ろうとするものである。

(3) 計画の目標

都市近郊にあって、都市部では既に失われたふるさとの風景があり、こうした風景を巧みに取り込んだ交流施設、基盤整備が新たな都市住民との交流を創造し、自然環境、歴史的遺産、伝統的な文化・産業、そしてそれらに携わる地域の人々など、地域資源のすべてを活用した「地域まるごと博物館」づくりを推進する。

事業の実施にあたっては、国、県、地元市町が連携して、NPO法人北はりま田園空間博物館が行う、ソフトインフラとしての「人材の育成」と「情報の発信」などの関連事業を支援することにより、地域のもつさまざまな資源を最大限に引き出し、草の根からの地域活性化へと繋げていく。

また、兵庫県立大学の持つ、都市と農山村の交流に関するノウハウや人的資源を上記のソフトインフラと融合させることにより、官・学・民間一体となった地域再生に関する取り組みを行う。

こうした事業を通して、地域住民が、地域に学び、地域のまちづくりへの関心と参画の意識を高めるとともに、都市住民との交流による新たないぶきを地域に取り入れることにより、新しい地域文化の創造と地域活性化につなげていく。

具体的には、交流施設、基盤の整備を支えるソフト事業として、「北はりま田園空間博物館」エリアを対象に、既存のNPO法人を活用しながら、地域づくり運動の中核をなす人材の育成、案内人（インタープリター）の養成を行い、地域住民による地域づくりへの意識醸成を図るとともに、実践活動を地域内外に情報発信し、また、施設間、舞台間を結んだ有機的なネットワークの形成により、さらなる交流の舞台として、当地域への誘客の促進を目指していく。

また、域内交通ネットワークの充実により、当地域を訪れた交流人の利便性の向上を図るとともに、交流コースを設定し、複数の交流施設を繋ぐことで、個々の魅力を相乗的に強調し、新たな魅力を創出することにより、入込み客の来訪の機会を増やしていくことにより、地域の再生を目指す。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

情報発信機能の充実を軸としたソフトインフラの整備と、これらとの相乗効果が期待される交流施設、基盤の整備が地域において一体的に展開され、リピーターを含め当地域への観光客の入込みの増加が図られる。

また、この計画の実施により行政、NPO、地域住民が連携した取り組みによる地域の活性化とともに、地域におけるホスピタリティの向上、ボランティア機運の醸成等を通じて、交流人や地域内外に対して地域の良さを発信することが図られる。

<観光客入込数>

(千人)

区 分			9年度 A	13年度 B	14年度 C	20年度 D	B / A %	C / B %	D / C %
入込 人数	計		1,730	1,596	1,586	1,730	92	99	109
	分類	うち日帰	1,578	1,457	1,456	1,592	92	100	109
		うち宿泊	152	139	130	138	91	94	106
	分類	県外から		466	362	384		78	106
		県内から		1,130	1,224	1,346		108	110

1 表中段の数値は、計画地域の観光客入込み数

2 平成 20 年度の数値予測

- ・ 14/13 の北播磨地域全体での伸び率は約 11% (H13 9,470 千人→H14 10,547 千人)
- ・ 今後 20 年度までの伸び率をその半分の 5%と見込む。
- ・ また、地域再生による効果（関連事業を含む）1%を計上し、6%の伸びをベースとしつつ、県内からの入込み客については、直近の伸びが予測値を上回ることから 10%の伸びを見込んだ。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

230004 都市と農山村の共生・対流に関する施策の連携強化

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

特になし

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

特になし

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

(番号) 212016

(名称) 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

2 当該支援を受けようとする者

N P O 法人北はりま田園空間博物館

- ・ 設立 : 平成 14 年 6 月
- ・ 法人認証 : 平成 14 年 11 月
- ・ 会員数 : 正会員 115 人、ふるさと会員等 17 人
- ・ 所在地 : 西脇市寺内天神池 517-1

3 当該支援措置を受けて実施し又は実施を促進しようとする取組の内容

平成 16 年度中に実施される予定の国土交通省の「観光地づくり・観光客の利便に資する情報提供」の支援策に基づき、以下の事業の実施を検討する。

観光交流を支える人的資源の活用、地域からの情報発信による先進地域との交流の取り組みを展開するため、伝統工芸や伝統芸能等の分野において専門的な技術、知識をもつ名人、地域に生きるカリスマ名人、指導力に優れたスポーツ指導者等で、実践活動が期待できる人材の活用を進める。

そこで、こうした地域の観光カリスマを、平成 16 年度において、国の支援措置である「観光カリスマ塾」への参加において教育することにより、魅力的な観光地づくりの基盤となる人材の育成を図る。

また、国の支援措置である H P を通じた情報発信を活用し、先進的な取り組みを実施している N P O や地域づくりの情報を収集する。

これら事例を、当地域の特性に応じアレンジし実施することにより、新たな地域文化の創造や直接的な誘客効果に繋げる。

別 紙

1 支援措置の番号及び名称

(番号) 230004

(名称) 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化

2 当該支援を受けようとする者

N P O 法人北はりま田園空間博物館

- ・ 設立 : 平成 14 年 6 月
- ・ 法人認証 : 平成 14 年 11 月
- ・ 会員数 : 正会員 115 人、ふるさと会員等 17 人
- ・ 所在地 : 西脇市寺内天神池 517-1

兵庫県

3 当該支援措置を受けて実施し又は実施を促進しようとする取組の内容

当該地域は、京阪神の大都市から 1～2 時間と近接しているが、大部分が農村及び山林であり豊かな自然に恵まれている。

そこで、地域が一体となって都市と農山村の交流を機軸とした地域づくりの指針となる「北はりまハイランド構想」を平成 7 年 3 月に策定し、その後のアクションプログラム等に基づき、県内外各地域との「交流と共生」を視野に入れた地域づくりへの取組みが進めている。

また当地域では、公園・アウトドア施設での自然体験メニュー、農林業における体験メニュー、紙すきといった伝統工芸での体験メニュー、播磨風土記に伝わる神話の中の歴史と文化など多彩な地域資源と豊かな自然とが一体となっている。

その地域資源に兵庫県立大学により培われた都市と農村の交流に関する研究成果をフィールドワークとして当地域において実践することにより、都市住民を受け入れる環境を整備し、こうした資源を活かした“北はりまらしい”交流の舞台づくりを展開する。

そこで、支援措置を活用し、当地域における人的・物的資源を最大限に活用した都市と農山村の交流に関するプランづくりを図る。